

3. 4 外字処理の方式について

3. 4. 1 外字処理方式の考え方

広域連合で扱う保険者業務において、被保険者証や各種帳票への住所や氏名等の印刷は、その内容が本人を特定する手段となる意味からも市町村で扱っている外字も含んだ表示がされることが望ましいと考えます。ここで扱う外字については、広域連合は都道府県単位で運用されることから、単一市町村毎に管理しているものを集約して管理することが必要になりますが、外字は全市町村で統一されておらず、さらにこれらの文字数累計は、本システムで想定している Windows の標準外字数を超えてしまうことが想定されます。

一方、標準システムは、制度施行スケジュールに対して、確実なシステム稼働が必要なシステムであり、短期間の開発を行うものであることから、これまでなかったような新たな方式を取り入れることは全国での同時稼働に対してのリスクが非常に高く、また、新体系での文字体系を用意しなければならないため、市町村の負担も大きくなります。

以上を踏まえて、標準システムでは以下の文字処理方式を採用することを予定しています。

- ・コード体系：UCS2 のコード領域を使用し、住基ネット統一文字コードに準じた体系を前提とした文字管理方式とする。
- ・漢字は2バイトコードで扱う。(コード領域：0000～FFFF)
- ・各市町村には統一文字コードに準じた体系(21,039字)の範囲外となる外字が存在するが、この文字については広域連合にて文字同定の上、未使用領域(私用領域(6,400字)含む)に対しコード化し管理する。(なお、6,400文字を超える拡張可能な文字数については、現在確認中)

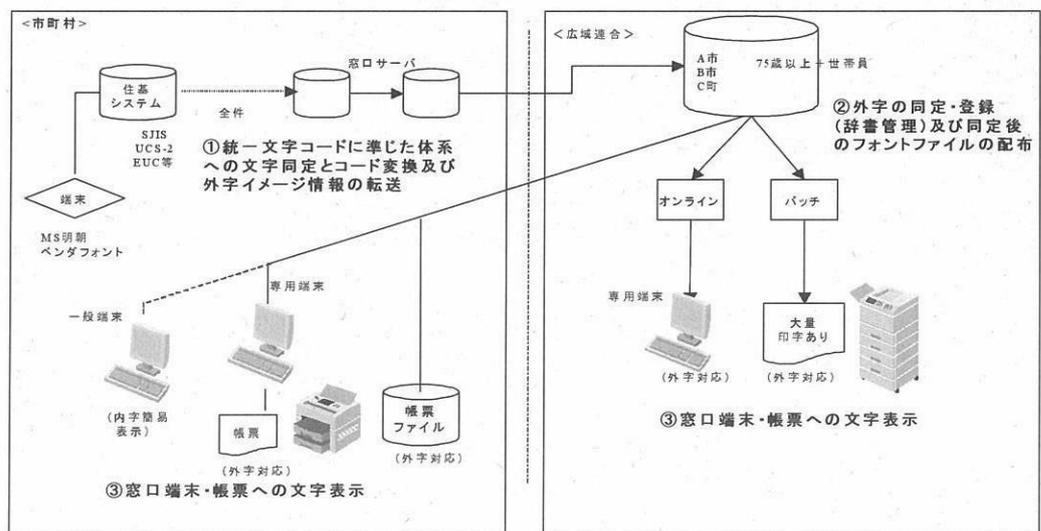


図 3-2 外字方式の概要